

もっと使いやすく、もっときれいに「駅の文化祭」開催

神明・田原町 / 福井鉄道 061104・061111



神明駅



田原町駅

活動報告

- 10月28日 まちづくりフェア共催
「フクイの秋色 まちなかおもしろクイズ
みてきて Let's Go」
- 11月 3日 鉄道まちづくり会議（加西市）
- 11月 4日 13:20～『駅の文化祭』神明駅
11日 13:30～『駅の文化祭』田原町駅
- 11月 8日 IRE LRT研究会
- 11月17日 例会・理事会

今後の予定

- 11月18日(土) 13:30～『駅の文化祭』家久駅
- 11月26日(日) 10:00～16:00 消費者まつり
フェニックスプラザ（主催：福井市）
- 11月29日(水) IRE LRT研究会
- 12月15日(金) 例会・理事会
- 12月20日(水) IRE LRT研究会

ゆうじんの部屋 書籍紹介

シリーズ:現代経済研究24 都心回帰の経済学

八田達夫編 日本経済新聞社 3800円+税

ISBN4-532-13305-X C3033

表紙の袴の紹介文は「大都市への集中促進が経済を再生させる！都心集中は悪くない！「国土の均衡ある発展」がもたらしたヒト・モノ・カネの非効率な分散の弊害を解明。その放棄こそが日本経済復活の原動力となったことを実証するユニークな研究」とある。中身を読むと、ミクロに取り上げた事象を見る限りそのとおりと納得できる。

しかし、例えば、容積率を規制するより、それに見あったインフラを作ったほうが特と言う主張もあるが、インフラ整備にかかる時間等全く考慮されていないし、インフラ整備に取り残された地方の土地所有者に対する補償制度などが無い中でどうやって公平な社会を作るのか。そういう視点は全く欠けている。もちろん、港湾整備の予算配分、羽田空港の発着枠配分など納得できるところもあったが、電気が止まった途端に生活に大きな支障をきたす高層マンションの実態を著者の皆様は知っていて知らないふりをしているようである。なお、筆者たちの博識をぜひ自動車の社会的費用問題に活かして欲しいところである。

美濃部 雄人 Minobe Yujin

「みて、きいてルールで Let's 5」061028

参加者: 畑、高橋、玉井、岸本、清水、鳥居、塚谷



キャッチセール(?)で女子高校生を誘う畑さん

クイズ参加受付



10月最後の週末28日の土曜日の午後は、さわやかな秋空の元、まちはいつもより活気付いていました。そんな中、人通りも多い福井西武百貨店前にて、福井まちづくりフェア2006の一環としてROBAのイベント「みて、きいてルールで Let's 5」を行いました。

西武前を拠点としてまちなかを探索してもらい、駅前電車通りを中心とする5つの店舗に行けばすぐに解答がわかる合計5つの問題を解けば、様々な景品が当たるという形式です。全問正解で抽選により、チョロQやえち鉄一日乗車券など素敵な景品が待っています。

ちょうどその日は、同じまちづくりフェアの学生団体主催イベントも西武百貨店内で行われていたので、西武前は双方の“客引き合戦”でにぎやかに。畑さんや清水さんの“キャッチセールス”が功を奏したのか、用意した50枚の解答用紙は時間内にすべてなくなりました。

イベントに参加してくれた(引き込まれた?)のは、仲良し高校生、小さいお子様連れの家族、高齢者などさまざま。合計で20枚ほどの回収がありました。軽いノリで行ったつもりイベントでしたが、参加者の中には、福鉄電車の新車両の座席の少なさや乗り心地の悪さを指摘してくれる人がいたり、福井のまちづくりや公共交通のことについてROBA会員と真剣に話をする人がいたりして、望外の収穫を得た側面もありました。今後もこのような楽しいイベントを継続的に行って、公共交通とまちづくりについての市民の生の声を聞いていきたいものです。

(報告/塚谷)

第3回全国鉄道まちづくり会議加西大会に参加して



挨拶をする中川暢三加西市長

去る11月3日、4日に兵庫県加西市で開催された、第3回全国鉄道まちづくり会議加西大会に参加して参りましたのでご報告致します。

第3回全国鉄道まちづくり会議は加西市の北条町駅と小野市の粟生駅を結ぶ第三セクター鉄道「北条鉄道」の存続の取り組みを背景に開催されました。地方鉄道をめぐる厳しい経営環境のなか、社長に就任した中川暢三加西市長がリーダーシップを発揮して北条鉄道の変革を推し進める一方、市民や関係機関に対する強いメッセージをこめてこの会議を開催したものです。

3日は市内視察と交流会。観光ボランティアから北条鉄道の取締役役に就任した水田加代子氏や“新日本様式”に選定された「ボランティア駅長」の皆さんから説明を聞きながら市内をめぐり、夜の交流会では中川市長や鉄道まちづくり会議会長の山岸正裕勝山市長、国土交通省鉄道局財務課長の櫻井俊樹氏をはじめ、行政、事業者、市民等、多くの参加者が食事をしながら名刺交換や情報交換を行いました。

4日は本会議。中川暢三加西市長、山岸正裕鉄道まちづくり会議会長他の挨拶、櫻井俊樹国土交通省鉄道局財務課長、辻本勝久和歌山大学経済学部助教授の基調講演、バイオディーゼルについての報告、北条鉄道の取り組みの報告（水田加代子取締役他）、しなの鉄道・上田電鉄の取り組みの報告（古平浩氏）、和歌山電鐵の報告（磯野省吾代表取締役専務）、パネルディスカッション「地域と協働で支えるマイレール」（コーディネーター：中川大京都大学大学院助教授）が行われ、合間にハーブ演奏や地元の合唱団による北条鉄道イメージソングの発表なども行われました。

それらの中で、辻本助教授は「車は20世紀のシンボル。経済波及効果が大きい。でも、過度に依存すれば弊害が大きい。」磯野氏は「社員もボランティアをしなければ地方鉄道はもたない。」中川助教授は「それぞれの地域に“人（人材）”がいる。リーダーシップが必要。鉄道は自分たちのものであり、“残してもらいたい”ではなく“残したい”という考え方が必要。各地の事例を知ることや“最良の、画期的なものにして残す”というコンセプトが必要。第3セクター化は鉄道を地域に取り戻すということ。」と説き、中川市長は「“縮小均衡はダメ”ということを市民に認識させることが必要。また、市民自らが知る必要がある。そのため市長をはじめ口を酸っぱくして伝え続けることが必要。」山岸会長は「“覚悟”の仕組みが必要。乗るしくみをつくらなければならない。スキームを作って実行する。超一流の経営者を見つけて連れてくる。何人乗車を達成する必要があるかという数値の目標を掲げる。マーケティングが必要。」と説きました。これらの話は、磯野氏が「今日の内容をそれぞれの地域に持ち帰って伝えて欲しい。」と言われたように、全国で共有する必要を強く感じました。鉄道まちづくり会議がさらにステップアップできるよう祈念し、私たちも活動していきたいと思えます。（文・清水省吾）

駅美化運動報告第1弾【神明駅編】

実施日：平成18年11月4日（土）午後1時30分～午後2時30分

参加者：高校生 木下 京子、森本 愛菜

福井県 伊藤 繁輝

鯖江市 小澤 紀史

福井鉄道 薄田 安男（運輸担当課長）

ROBA 内田、林ひ、岸本、高橋

13:30～13:40 趣旨説明及び自己紹介

13:40～13:50 駅周辺、駅舎内観察

13:50～14:20 意見交換

14:20～14:30 参加者の講評

14:30～14:40 全員で清掃、参加賞に「のりのりマップ」と（林照+谷村）作の「写真短歌集」を贈呈

駅周辺、駅舎内の観察

駅周辺、待合室、ホーム、線路周辺

（高校生の感性）

- ・トイレが汚い、掃除をすればきれいになる。
- ・掃除用具を見えないところにしまう。（県の方で用意したものが置いてあったもの）
- ・段差があるのでスロープが欲しい。
- ・ゴミ箱はあるが、分別していない
- ・看板があるが、汚れたり錆びているので更新をして欲しい。
- ・タバコの吸殻がホームに落ちている。（待合室に「禁煙」の張紙があるが？）
- ・ベンチの汚れがある
- ・待合室に貼り物が多く、時刻表が見にくい。
- ・ホームにゴミが落ちている。
- ・花が少ないのでもっと多く置いてもいいのではないかな。

（大人の感性）

- ・コミュニティバスの乗り場を駅舎の軒下に考えられないか？
- ・待合室が暗い（照明を一部消している）が、塗装などの工夫で明るくなる。
- ・P&Rは工夫すればできる余地がある。
- ・西側の空地に植栽をすることで、ホームで待つ人が和む環境をつくれるのでは？
- ・バスとの接続が良くない
- ・電光掲示板で接近表示などをして欲しい
- ・わかりやすいコミバスの時刻表を待合室に張って欲しい。
- ・田原町行きが福井駅前へ行くのと直接行く電車の区別を付ける表示をして欲しい。（乗客でわからない人を見かけたことがある）
- ・ホームで電車の行き先方向の表示をきちんとして欲しい。
- ・レンタサイクルやP&Rを有効に利用できるようにしたい。
- ・表示のバラツキがあり、見やすい位置に貼って欲しい。
- ・展示ブロックを手すりにもやったらどうか。

- ・旧ホーム（高床）を自転車置き場にできないか？
- ・線路の中の植栽を有効利用できないか？
- ・高床ホーム（旧）を待合室の一部として利用できないか？

意見交換

私たちができること

- ・高校生たちがホームでたむろするのでやめるようにしたい。（マナーを守る）
- ・喫煙する人は自らマナーを守って欲しい。

福井鉄道さんに考えていただくこと

- ・今日、いろいろご指摘してもらったことをできるところからやっていきたい。
- ・ペンキや掃除はみんなで分担してやっている。もっと頑張っってやっていきたい。
- ・今後一生懸命、便利な駅にしていく所存である。

行政に考えていただくこと。

- ・待合室が暗いのが気になる、イメージアップをしていきたい。（福井県）
- ・コミバスとホーム（駅）をもっと近づける工夫をしていきたい。（鯖江市）
- ・コミバスの時刻表についても見やすいものを作成していきたい。（鯖江市）

その他

- ・駅まではクルマでの送迎であった。（バスが運行している間はバスを利用しているようだ。また、自転車の盗難にあってからクルマの送迎に変えた子がいた。自分の友達も「キス&ライド」を利用している子が多いとのこと。



意見交換

みんなで点検



インタビューを受ける内田会長

参加した高校生



（文責：高橋）

駅美化運動報告第2弾【田原町駅編】

実施日：平成18年11月11日（土）午後1時30分～午後2時30分

参加者：高校生 久野 恵祐、宗倉 昇大、藤本 剛史 福井県 井関 文蔵

福井市 井沢

福井鉄道 佐々木 常雄（交通事業部長）

ROBA 内田、林博、林照、清水、三寺一家、玉井、鳥居、高橋

タイムテーブルは神明駅と同じ

駅周辺、駅舎内の観察

駅周辺、待合室、ホーム、線路周辺

（高校生の感性）

- ・トイレ、コンビニ等が近くにあるのでよい。・トイレが狭い。自転車の整理が必要。
- ・椅子の数が少ないのではないかと？奥のデッドスペースを有効利用すればもっと置ける。
- ・待合室の冬は寒い。 ・点字ブロックがあるが充分ではない。
- ・掲示板部分が暗く小さい、明るく大きくしてほしい。また、壁等もはがれてみっともない。
- ・駅の割合には自販機の数が多いのではないかと。・待合室に貼り物が多く、時刻表が見にくい。
- ・線路の草むしりをした方がよい。ホームにプランタンに花を植えてキレイにする。
- ・ホームに段差があり、危ない。

（大人の感性）

- ・駅入口のサインがなく、フェニックス通りから駅が容易に見えない。
- ・何箇所かの構内踏切があるが少し危険なので対処してほしい。
- ・駅舎が暗いので塗装をすることでイメージアップを一部、柱などに構造上の不安。
- ・掲示板がばらばらで見にくい。サービスやフリー切符等の案内がわかりにくい。
- ・えち鉄側に植栽があるが福鉄側がない。えち鉄と福鉄の間にもっと植栽があった方がよい。
- ・駅構内は原則「禁煙」にすべき。喫煙場所不適當（中央から端へ移動させました）
- ・バラストの上の草むしりをしてはどうか。（写真参照）
- ・ホームの真ん中に段差があるので、何とかフラットにできないか？
- ・せっかくスロープがあるが、勾配が急な箇所があって車イスの方には危険、手すりがグラグラして危ない。 ・雨漏りなのか、排水が悪く水がホーム内に流れてきている。
- ・改札の鉄枠は邪魔、車イスの方が通れないので取っ払ってもらいたい。
- ・自転車置き場を工夫したい。使用していない廃屋を駐輪場や待合室に活用できないか？
- ・コンビニ裏側の敷地を利用し、少ないがパーク＆ライドをすることはできないか？
- ・拠点駅となるので駅員を置いてほしい。 ・駅に時計がない。電波時計が欲しい。
- ・傘などが無造作に捨てられているのでみっともない。 ・ゴミ箱は撤去した方がよい。
- ・時刻表についても、きちんとしてえち鉄との接続関係も明確にしてもらいたい。
- ・系統図など、また観光に力をいれるのであれば、観光案内等も必要。
- ・ホームにスピーカーがあるが、声が割れてははっきり聞こえない。特にこれから降雪で遅れが出る場合にきちんとした情報が入らないと困る。

意見交換

福井鉄道さんに考えていただくこと

- ・今日、いろいろご指摘してもらったことをできるところからやっていきたい。
- ・ペンキやプランタンなど具体的なことは今後検討したい。乗車人員が3万人近く多くなり前

年比で103%の増となった。これからも安心して乗車いただけるよう努力したい。
行政に考えていただくこと。

- ・現状をつぶさに見ることができた。改善に向けて努力していきたい。(福井県)
- ・家に帰ってからも駅や電車等について語り合っていたらと思う。(福井市)

清掃活動

- ・ホームのベンチや壁、床等の清掃、線路の草むしり、ゴミなどの撤去を行った。

その他

- ・参加した高校生からは、このような話し合いができてよかった。と感想を述べていた。
- ・かに+電車ツアーに参加した日本路面電車同好会のメンバーも、駅美化運動の清掃活動に参加、一緒に汗を流しました。その後ROBAと交流会、懇親会を持ちました。
- ・建物が古く歴史的な観点から、専門家を交えて望ましいあり方について検討するのもいいのではないかと。(例えば、福井大学の専門家などを交えるなどの可能性がある)



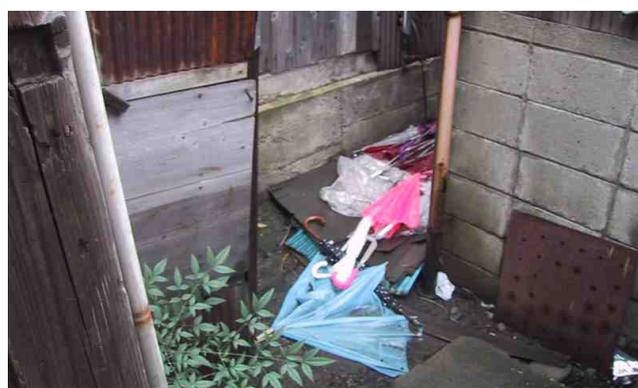
みんなで清掃(バラストの草むしり等)



昔の改札の名残、車イスが通れない



灰皿がホームの真ん中にあった、椅子が少ない



傘が無造作に捨てられている(ホームから見える)

(文責:高橋)

駅の文化祭第2弾(田原町駅)に参加された皆様、雨の中お疲れ様でした。その模様が、日刊県民福井(11/12)に掲載されました。記事の大きさは4段分あり、先週福井新聞に掲載された第1弾(神明駅)よりも大きな扱いです。記事の写真には、高校生3名、内田さん、三寺さんと私が写っていましたが、私が写真の右前方に高校生よりも目立って写ってしまい、何だか申し訳ない感じがしました。田原町駅は過去数回利用していたので、私なりに改善点をいろいろ考えていましたが、今回は今まで自分自身気付いていなかった箇所も多く指摘されていて、大変勉強になりました。これを機会に、田原町駅が乗継駅およびターミナルとしてふさわしい姿になるよう、出来ることから少しずつ進めていければと考えております。

記・鳥居 健

「蟹と電車のツア - in 福井」 061111



これまで、ROBA総会の基調講演等をしていただいている服部重敬氏が、日本路面電車同好会会員36名のお客様を引き連れて来福されました。当日は「駅の文化祭（福鉄・田原町駅）」にも参加され駅の清掃も手伝っていただきました。

その後、県民活動センターで交流会が行われ、最初、林博さんからROBAの活動概要・のりのりマップなどの説明があり、意見交換に移りました。私より福井の電車事情をよく知っている人も多く、シビアな質問も多く出され、熱い議論が続きました。

のりのりマップもたくさん買っていただいたようで、林博さんは商売上手という声も。おかげさまで私の著書の本も1冊売れ毎度ありがとうございました。しらふでの熱い議論は一旦中断し、カニを肴に熱い議論PART2は駅前「庄屋」に場所を移し続行されました。

なお、日本路面電車同好会の会員は、北は北海道から南は九州までいるようです。この日も全国から来福されました。
(報告 林照)

作 / 漆崎 耕次

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「スノータイヤの取替えはお早めに」

塚谷(副編集長)

「初めてのエキストラ出演、映りはどう？」

内田(発行責任者)

「駅の文化祭を契機に、もっと駅を大切にしたいね」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail : roba@mbh.nifty.com

URL : <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>